

水の源

MIZUNOMINAMOTO

2019

44

SPRING

巻頭インタビュー

水源の里へ思いを馳せる

すべての人の心に花を

音楽家 喜納昌吉さん



ウォークルポ

定住率100%の

凄腕コーディネーター

徳島県美波町

関係人口の育成目指す

高校生主体に“地元改革”JK課

鳥取県日野町

首長リレー連載

香川県まんのう町

栗田隆義 町長

水源の里のうまいもん

いわなのアヒージョ

福島県川内村



「Tシャツアート展」

高知県黒潮町

2019年 5月2日(木)～7日(火)開催

建物自体は持たず、全長4kmにわたる砂浜が展示物であるとする黒潮町「砂浜美術館」。この美しい砂浜で例年GW期間中に開催される本イベントは毎回多数の参加者を集め、31回目を数えるなど、地域の文化になりつつある。公募作品をプリントした約1000枚のTシャツが、波の音をBGMに潮風の中でひらひらする風景は圧巻。砂浜沿いに続く松原にキルト作品を展示する「潮風のキルト展」の他、年中無休の「常設展」として、沖を泳ぐクジラ・砂紋・漂流物など、ありのままの風景を作品として楽しむことができる。

すべての人の心に花を

音楽家 喜納 昌吉さん

——里山の古民家でコンサートをされましたね。

ええ、出版社の社長さんから「喜納さん、何百、何千人というホールでのコンサートも大事だけど、規模は関係なくおもしろいことやりましょう。数十人単位でもいいじゃないですか」とお誘いを受けました。つらいニュースが多いなかで、皆で元気になりましょうということでお引き受けしたのです。

私は、アインシュタインや湯川秀樹が提唱した「世界連邦」に共鳴し、この考えが広がるのが核廃絶、平和につながると思っています。アインシュタインは、自分の研究が原爆という核兵器に使われて、しかも大好きな日本に落とされてしまったという、このことに対して盟友・湯川秀樹に涙して謝罪したといいます。またその贖罪の念から「世界連邦」を強く提唱したわけですね。このアインシュタインの想い、彼が流した涙を受け止めることができるのは、まずは日本人だと思っています。

里山でのコンサートは「絆ライブ」と銘打って“つながる大切さ”を皆で見直していければと願って行いました。



古民家で開催された「喜納昌吉「絆ライブ」」。会場に入りきれないほどの盛況。天気にも恵まれたので椅子を外に出して100人ほどが音楽を楽しんだ。

た。地元での音楽祭、お祭りのなかにプログラムを組んでもらったので、0歳の赤ちゃんから80歳を超えたおじいちゃん・おばあちゃんまでが参加し、老若男女、皆で盛り上がり楽しかったですね。そもそも祭りそのものが本来パワーをもっているものですし、まさにボーダレスなもの、世界連邦につながります。そして「水源の里」の理念にも、もちろんつながります。

「上流は下流を思い、下流は上流に感謝する」。川は上流から下流、そして海へとつながり、世界へともつながっています。上流の平和が世界の平和につながっているんですね。余談ですが、沖縄の首里城は外観だけが復元されているけれど、実はあまり目に見えないところ、治水関連技術が相当秀でていたということが近年分かっています。水を守る、大事にするというのは、いつの時代にもどこでも共通ですが、沖縄はその最先端だったそうです。

——喜納さんの代表曲『花』のなかにも「川は流れてどどこいくの」というフレーズがありますね。喜納さんの幼少期の原体験がこの歌に関わりがあったのでしょうか？

沖縄のコザ市（現沖縄市）で生まれました。かつては一方は緑が広がり、もう一方に米軍の基地施設が広がるという街でした（今はもう建物だらけで緑はなくなってしまいました）。そういう街でヤンチャな子ども・青春時代を過ごしました。小学校のころは女の子の机の引き出しに虫を入れたりしてイタズラばかりでした。だからでしょうね、卒業式のときにクラス全員の女子に追いかけられたりしました。モテたわけじゃなく皆で最後に僕を懲らしめようと思ったんでしょう（笑）。

『花』については17歳のときにたまたま入った食堂の



喜納さんのポーズはVサインでなく！（愛）サイン。愛と平和を意味する。戦争に勝利（Victory）して得る平和や核の抑止力といった危うさの上で成り立つ平和でなく、無償の愛に基づくゆるぎない平和を表している。

テレビで、東京オリンピックの閉会式を見ていました。アナウンサーが「世界中の人がひとつになって、泣いています、笑っています」と実況しているのを聞いて♪泣きなさい、笑いなさい♪というサビのメロディが浮かんだのです。それで、しばらく温めていたという聞こえがいいのですが、なんとなくそのままにしています。14年後に東京のホテルでお茶を飲んでいたときに、突然、天から言葉が降りてきて完成することができたのです。この曲は世界中で多くの歌手に現地語でカバーされ、タイやベトナム、インドネシアなどに出かけていくと、それぞれの国の人が自分の国の曲だとおっしゃるんですね。それだけ皆さんに愛していただけっているということ……。自分でつくったというよりも、与えられ授かった曲ですね。

——世界60か国以上でカバーされ、売り上げは3000万枚以上と聞いています。

東京オリンピック閉会式がきっかけで生まれた曲で、その後はアトランタ五輪や北京五輪でも『花』は歌われ

ています。今度の2020年の東京五輪でも皆さんに歌ってもらえればうれしいですし、その準備を進めています。歌には国境はありません。

耳にされたことがあるかもしれませんが、「すべての武器を楽器に すべての基地を花園に すべての人の心に花を 戦争よりも祭りを」、このスローガンを今後も大事にしていきたいと思っています。

【聞き手・蒲田正樹】

Profile 喜納昌吉さん

沖縄県沖縄市生まれ。1968年、「喜納昌吉&チャンブルーズ」を結成。13歳のときの作品『ハイサイおじさん』が70年代前半の沖縄および日本で大ヒット。現在までに15枚のアルバムを発表。『花～すべての人の心に花を～』は世界各国でカバーされ、タイ、台湾、中国など各国で記録的なヒットとなる。2006年、文化庁により「日本の歌百選」に選定された。オリジナリティあふれる音楽センス、躍動感みなぎるライブステージは世界中で高く評価されている。

定住率 100%の 凄腕コーディネーター



みなみちよう
美波町 あま
徳島県海部郡

移住・定住の促進が地方自治体にとって人口減少・高齢化対策の特効薬として注目されるようになって久しい。近年は地方創生の提唱で、さらに加速・過熱しているのが現状である。今を遡ること約40年。生家の新聞配達業を継ぐために、徳島県・美波町に一人の女性が夫とともに大阪からUターンしてきた。全国にその名が轟く凄腕移住コーディネーター小林陽子さんその人である。なんと現在では“定住率100%”を誇るという定住支援の立役者取材した。

新聞販売数の拡大のために

小林さんは1950年、徳島県の、当時は日和佐町(ひわさちょう)だった町の商家に生まれた。大学進学を機に大阪に移住し、結婚の

ち主婦業を兼ねつつ、テレビ番組のコーナーの中で主婦代表として、タレントの笑福亭鶴瓶さんと共に1年間出演するなど活躍していたが、ある日、新聞販売店を経営していた実家の母親が事故に遭い、それ

を契機に日和佐町への帰郷を決断。1983年、小林さん33歳のことだった。

大阪から帰郷して、過疎と世帯減少の実態に驚いた小林さん。地元紙の特約店として町全域に新聞を配達

していたが、「このまま世帯が減っていけば、売り上げは低迷し、折り込み広告も減少して、やがて生業として成り立たなくなる」との危機感にさいなまれ始める。小林さんはUターン者やIターン者を町に招き入れれば、世帯の減少を押しとどめ、ひいては家業の衰退を防げると考えるに至った。そうして見ると新聞配達は、移住・定住の窓口となるには最も適した業種だった。毎日欠かさず家々に新聞を配達していることか

ら家屋の動向には精通している。実は筆者も体験したのだが、新聞の配達という仕事は、思っている以上に地域のいろいろなことが分かってくるものだ。早朝から声をかけてくれる人、新聞が雨で濡れていて怒り出す人、また集金の際には玄関に入ることにもなるし、集金人が若いとお釣りをくれたり、逆に愛想がなかったり。そしてまた立ち話もすることも当然ある。ましてやこの小林さんは、突き抜けるような明るさと

人懐っこさのある方だ。それこそ会話も自ずと弾む。空き家の実態や物件の程度など、不動産業者よりも詳しいくらい実態が把握できていたのだ。小林さんのボランティアによる定住支援はこうして幕を開けることになった。

ふるさとの実態に愕然

ふるさと美波町に帰郷してショックだったことは、人口や世帯数の減少ばかりではなかった。大阪で慣れ親しんだ文化や生活のレベルが保てないと感じたのだ。美術鑑賞やコンサートの機会がない。スーパーマーケットの品揃えにも愕然とした。日本全体の流れから取り残されていくような埋没感を強く感じるようになったという。気の合う友人も少なく、近所づきあいの煩わしさも体験した。今でこそ「田舎にプライバシーはない」とまで断言する小林さんだが、当時は、外出のたびに「どこ行っきょんえ？」(どこに行くの)と尋ねられることに閉口したと述懐する。それでも、商いとしての新聞配達業を成立させるため、顧客の拡大のための空き家の流動化に取り組ん



町を代表する景観・大浜海岸。ウミガメの産卵地として天然記念物、また「日本の渚百選」にも選ばれている



小林さん(写真中央)が代表を務める一般社団法人アンド・モアの事務所とスタッフ。以前は駄菓子屋だったが、改装し現代的なオフィスに生まれ変わっている



左/四国八十八ヶ所のひとつ「薬王寺」。参拝者が年間を通じて訪れる、町の一大観光名所だ
上/移住フェアのブースで移住者を募る。小林さんの人選力が発揮される

でいった。

「面倒は一生見る」

空き家を市場に出すための秘訣は？と尋ねると、にべもなく「そんなものありませんよ！とにかくコツコツと粘り強く説得し、理解してもらおうこと」という答えが返ってきた。小林さんは、葬式があった家には後日出向き、後のことなどを尋ねたという。またその家の親戚や家族が集まって、以後のことを話し合う機会となる「四十九日」には失礼のないよう訪問して、情報を得たそう（実は町自体が小さいので、町民はみな顔見知りの状態。四十九日などの際、どの家庭に行っても嫌がられることはないそう）。

このような活動が徐々に内外に広まり、1ターンの目指す人たちも彼女を訪ねて空き家の情報を得るようになっていった。その時に大切にしていたのが“人の見極め”。「移住者って何かしら事情を抱えているものなんです」。その抱えている事情が何であれ、小林さんは、この人はと見込んで応援すると決めたら「一生面倒見ます」と豪語する。もちろん実際には難しいかもしれないが、そんなことを言ってくれる人だからと移住者は安心して身をゆだねることができるし、だからこそ小林さんとしては最初の人の見極めがとても重要になってくるのだ。



東京で開催した徳島県移住フェアで小林さんと奥田さん（野田知佑氏）と出会い、移住を決めた奥田さんご夫妻。美波町にオープンした「みなみ食堂」は地元で愛され、大繁盛だ



趣味のシュノーケリングや家庭菜園をもっと楽しみたいと考えていた三原さんは大阪からの移住。若い人の集まるバーをいくつか町内で開くのが夢だという

原動力は「好きなこと」

定住者とは決して一人では面談はしないこと。田舎にあるルールや負担、特に個人情報保護（プライバシー）の感覚が乏しいことを伝えること。定住すれば2か月間は24時間面倒見ると宣言すること。そして定住後1年間は静かに暮らすように諭すこと……。移住者の窓口となる際の、自分なりのルールを小林さんは長年の経験から確立した。彼女が関わった定住者は今や200人を超えている。その一人ひとりの人生や面倒を死ぬまで見ると言い切るあたりに覚悟と凄みを感じる。「空き家の発掘にしても、定住者との向き合い方にしても、行政は早く諦め過ぎていて、もっともっと目線を下げて粘り強く取り組まないと実績はついてこない」と小林さんは警告を発する。

定住者の支援に対して、ここまで

小林さんを突き動かす原動力は何かと問うと「この仕事好きなんです」と単純明快な答えが返ってきた。もともと人と関わることが好きだったという彼女は、尼僧であり作家の瀬戸内寂聴氏と出会って「好きなことをやりなさい」という教えを受けた。自分にとって好きなこととは何かを自問し続けた結果、“人と人を結びつけること”。これこそが自分の好きなことだと気づいた。また、新聞の仕事と並行して行っていたオペラプロデューサーをしていたときの経験も生きた。オペラ楽団の意思と主催者の意向を調整し、舞台をさせる大事な役割となる仕事だ。その両方の思いが手を取り合ったときの喜び。パズルがはまっていく感触に似た作業やそのプロセスが自分の一番好きなことだと気づいた。

地域から物件が提供され、都会から美波町に移住を希望する人がやってくる。空き家のリフォームも一緒になってとことん付き合う。「リフォームって楽しい。」小林さんの目が子どものようにキラキラと輝いた。

尽きない「好きなこと」

実は今年、美波町の移住コーディネーターを卒業した。40年間ずっと、200人もの移住者に向き合ってきた。その肩の荷を降ろした小林さん。さぞかし寂しいだろうと思いきや、今度は徳島県の移住アドバイザーとして活動の場を広げる。今ま



菓子店を改修した小林さんのオフィス内。役場のすぐ隣にあり、古民家物件を活用した好例として参照する人も多い。また1泊3000円で“お試し移住”を体験できる施設も兼ねている（写真右）



町の移住コーディネーターを退いた現在は、徳島県全体の移住アドバイザーとして様々な活動に関わる

で蓄積してきた移住に関するノウハウを、移住する人と受け入れる集落の双方に伝えていきたいと抱負を語る。「長く定住に関することに携わっていると、作業のコツとか気をつけなければいけないことも分かっ

てきました。私の得たせっかくの経験をお伝えできればと思っている」とのこと。小林さんの「好きなこと」はまだまだ尽きることはないようだ。

【文・永井 晃】

取材後記

取材を通して小林さんのパワフルさにとにかく驚かされた。この静かな漁師町でどうしてこのような人が育ったのか？と…。どこの世界でも規格外な人間がいるものだ。相撲でいえば大鵬、野球でいえばイチローなど、その道のプロから見ても頭一つ、二つ抜け出している傑物がいるものだ。彼女もまたそういった中の一人なのだろう。筆者も役所時代の10数年の間、移住・定住や地域振興をテーマに仕事してきた。定住が100%成功するというところは、この仕事に関わるものとしては絶対に目指したいところだ。なぜならうまくいかなかった場合、その移住者よりも、地元が苦しくなってしまうからだ。うまく接したつもりが、何か自分に落ち度があったのかと悩んでしまうことも

ある。そうなる次なる移住者をまた受け入れようとする意欲が失われてしまう。そうならないよう、私も都市住民や田舎の人々の考え方、行政の立ち位置などに気を付けてきたし、またそういった経験と実績が必要になってくる。しかし、答えがない中で彼女なりにこつこつと積み上げた“移住率100%”の実績の前では、私もたじろいでしまう。彼女のその秘訣は何なのだろうと、取材後の帰途に思い続けた。そして頭に浮かんだ一つの言葉。それは“魂”だった。空き家の発掘しかり、定住者に対応するときもしかり、移住後のケアもしかり。すべての場面で彼女には入魂の気概を感じた。定住率100%の秘訣は、小林さんと移住者の魂の共鳴だったのかもしれない。



河口から少し北上すれば川遊びができる。この環境にほれ込んで移住してきたカヌーイストで小説家、野田知佑氏も小林さんがコーディネートしたそう



小林さんに影響を与えた作家・瀬戸内寂聴氏。30年ほど前に行われた「寂聴塾」に2期生として参加した

美波町はこんなまち



美波町は徳島県の南東部に位置する人口約7千人、面積140km²の町。太平洋を望む南東側は黒潮の良好な漁場を有し、ウミガメが産卵する砂浜や多様な岩礁など、変化に富んだ海岸部は「室戸阿南海岸国定公園」に指定されている。2009年にはNHK連続テレビ小説「ウェルかめ」の舞台となり有名になった。また四国八十八ヶ所第23番札所として多くの人が訪れる薬王寺があり、その他、日和佐城や恵比須洞など歴史や自然を体験することのできる観光スポットが数多くある。町は人口減少の進む過疎の町であっても、内外から人が集い、開業や起業が相次ぐにぎやかな町を目指し、「にぎやかな過疎の町美波町」として、町民一丸となって目指すことを宣言している。



香川県・まんのう町
栗田隆義 町長

癒しのまち まんのう

まんのう町は、香川県の中西部に位置し、雄大な阿讃山脈の山並を背景に、水と自然あふれた“癒しのまち”です。面積は194.45 km²と日本一小さな県内において3番目の広さがありますが、そのうちの約7割が豊かな山林となっています。町南部は標高1,000 m級の山々が連なる阿讃山脈に抱かれた複雑急峻な渓谷を源流に持つ県下唯一の一級河川土器川や財田川があり、その流れは瀬戸内海へと続いています。町北部は肥沃な平野が広がり米麦栽培が盛んに行われています。また、「ため池なしには讃岐平野の農業は成り立たない」といわれるように、町内には水不足に備え、町名の由来となった「満濃池」をはじめ1,000余りのため池が点在し、讃岐らしい景観となっています。

世界かんがい施設遺産「満濃池」

今は昔 讃岐国那珂郡に 万能の池といふ極めて大きな池あり

有名な『今昔物語』の中に、このような書き出しで満濃池の龍伝説が綴られています。

本町は瀬戸内海式気候のため、温暖で暮らしやすいところですが盛夏期の降水量が少なく、各地で水利紛争が絶えなかったため、農業用のため池づくりや龍神信仰、「綾子踊」(国指定重要無形民俗文化財)、「大川念仏踊」(県指定無形民俗文化財)などの雨乞い神事が盛んに行われてきました。

日本最大級のかんがい用ため池「満濃池」は、周囲が約20km、貯水量1,540万トンの、かんがい面積36.8 km²で讃岐の水瓶とも言われ、弘法大師空海が当時(821年)としては画期的なアーチ型堤防と余水吐などの工法を用いて再築したことで知られ、2016年に歴史的・技術的価値が評価され、「世界かんがい施設遺産」として認定・登録されました。

六次産業化による地域おこし

町は地域振興策として六次産業

化を推進するためにひまわりをキーワードに、廃校の小学校舎をリノベーションして、原料の保冷保管と「ひまわりオイル」の搾油から瓶詰めまで一貫して行える施設、またカリンや薬草などの乾燥・加工施設を備えた、生産の拠点となる「ものづくりセンター」を整備し、特産品のブランディング化に取り組んでいます。特にひまわりを使った地域おこしとして、町のひまわり畑が観光名所になっている点に着目し、「ひまわりならまんのう町」を全国に広めるため、地元銀行と連携協定して、朝ドラ風ネットドラマ「まんのう町のひまわりちゃん」をつくり、上映会や動画配信などを通して全国に情報を発信しました。「まんのうひまわりオイル」も官民連携して品質にこだわり容器やラベルを一新するなど、関係者の努力の甲斐あって、平成30年度の香川県産品コンクールで知事賞を、また優良ふるさと食品中央コンクールで農林水産大臣賞を受賞することができ、今後の事業展開にいっそう弾みがついたところです。

ほかに、空海が本町で御手植えされたといわれる町木のカリンの実



を使った製品開発や山野に自生する薬草の商品化、耕作放棄地を利用したそば栽培など、生産者団体と企業、行政が連携しながらブランディング化に取り組んでいます。

限界集落を護る

過疎化・高齢化に歯止めがかからない山間地の琴南地区を活性化させるため、地区有志と徳島大学、行政が連携して地域の進むべき方向性を地域住民が考え決定していく住民主導型のワーキング会議「ことなみ未来会議」を立ち上げました。地区の廃校舎を拠点に給食サービスや高齢者の安否確認、介護予防運動やスポーツ大会、水かけ祭りやハロウィンパーティ、芸術作品の展覧会や子どもたちへのアート指導、そば道場など、地域をつなぐための事業を住民が企画・立案し自主運営するなど、自分たちで地域を護っていく試みを行っています。

ご来町をお待ちしております

今年の「第13回全国水源の里シンポジウム」を、隣接する琴平町と当町が共同開催させていただくこととなっております。四国を代表する有名な観光スポットの「金刀比羅宮」と四国唯一の国営公園「讃岐まんのう公園」があり、全国的に有名なうどん屋さんがひしめくほか、見どころが数多くありますのでぜひ当町においでください。



満濃池



ひまわりオイル



山の小さな展覧会

関係人口の育成目指す 高校生主体に“地元改革”JK課 「成果」より「変化」求め



ひのちよう
日野町 鳥取県日野郡



鳥取県・日野町に「JK課」一。
と聞いて、女子高生にまつわる連想を巡らせるかもしれない。
そこそこ当たっている。
次代を担う若人らは案じた。結果を慮るあまり何もしないままではいけないか？
大事なものは「成果」ではなく「変化」。
地域に飛び出し様々なことに挑戦していこう、とプロジェクトは始まった。
地元改革“Jimoto Kaikaku”一略称「JK」。

海の向こうではひと昔前、“We can change”を唱える指導者の登場に期待が膨らんだものの、さて“yes, we can”と相成ったのか、その成果・評価をここでは問うまいが、代わって現れた“deal”を連呼する老不動産

王に世界が翻弄される様を見るにつけ、やる瀬ない思いが募ってしまう。舞台は比定すべくもないが、ここ日野においては「変化」は確かに起きている。

将来にわたり町を応援

JK課とは日野町役場「地元改革課」の略。ただし行政の部署ではなく、高校生主体のボランティアチーム名であり、プロジェクト名であ

る。人口、世帯数とも減少を続け地域コミュニティの維持が深刻な問題となる中、まちづくり活動への参画が少なかった高校生らが自ら企画した地域活動を実践することを通じて、様々な形で町とのつながりを持つ「関係人口」の育成を図ることを大きな目的としている。

日野町は鳥取県西南部、岡山県境の山間地に位置し、急峻な山の裾を縫うように流れる日野川沿いの谷間に集落が点在する。JR伯備線の特急列車が停まる根雨駅周辺は、古くは出雲と姫路を直線的に結ぶ出雲街道の宿場町として栄えた。旧根雨町と日野村、黒坂町の2次にわたる合併により昭和34年、現在の日野町が誕生。地方の村落の御多分に漏れず人口減少、少子高齢化が著しく、1980（昭和55年）年、2000（平成12）年にはそれぞれ6,000人、4,500人を数えた人口は現在3,000人に減り、さらに2040年には1,800人台まで大幅な減少が見込まれるという推計も暗い影を落とす。

こうした中、幸い同町には県立の日野高校があり、日野郡はじめ県西部から多くの高校生が通学している。また、人口15万人を擁し圏域の中核となっている米子市などに通う同町在住の高校生も少なくはない。これら生徒らと地域とのつなが



JR根雨駅と周辺。取材に訪れた日は冷雨に煙り、間近に迫る山並みと相まって幻想的な景観を呈していた

りを維持することで、進学や就職でふるさとを離れても将来にわたって何らかの形で町を応援してくれる人材を育てることこそ地方創生の原動力になるとらえた。

空き家調査きっかけに

JK課創設のきっかけは、高校生による町内の空き家調査だった。平成18年施行の同町空き家バンク制度は登録数66件で入居35件、売却6件の実績を上げており、うち計19件はIターンによるものだという。こうした実態を高校の課題研究で調べるにあたり、資料や情報を求めて役場を訪ねるようになる。頻繁に出入りする高校生の快活な姿に触れ、若い力を何とかまちづくりに生かせないものかと思案する行政と、ともすれば



上：会場の特設ブースで特注のシフォンケーキを剥く。町内外から訪れた参加者らに飛ぶように売れた下ノ隣町の高校生サークルとコラボしてイベントを盛り上げるとともに、つながりを広げる



地域協働で子どもたちの未来を創る」をテーマに開催された第10回鳥取県西部地区町村社会教育研究会の会場に集結したJK課のOG・現役メンバー。その笑顔は底抜けに明るい。(左から)浦上衿華さん、柳瀬明日香さん、柳瀬穂乃香さん、坪内明日香さん、松本真緒さん（2月17日・日野町文化センター）



上ノ旧街道宿場町の風情を残す根雨の街並み
左ノ日野川の寝覚狭をゴムボートで下るラフティングが大人気

制約の多い学校というフィールドから飛び出してみたいという願望を抱く若者の思惑が、幸福なランデブーを遂げる。

人を行動に駆り立てるのは往々にして危機感。日野高校の生徒約150人中、町内から通うのは3割で、それも6年後には半減するという。明日もし日野高がなくなったら、根雨駅が無人駅になったら…といった危惧の念が募るのも作用したか。一昨年11月、高校生らが自由な発想で地域活動を実践するボランティアチーム結成へとシナリオは展開した。

成長の坂道を駆け上ろう

テーマとなる「地元改革（Jimoto Kaikaku）」の頭文字をとった語呂合わせの「JK 課」もメンバーの発案だ。その名称から一見、女子高生の集まりを連想するが、日野高校アグリライフ系列に通う生徒ら男子もしっかりいる。メンバーの要件は、日野高校に通う高校生または町在住の高校生などとしている。2018年度は9人（うち男子2人）が在籍。

活動の目的として、自らの成長を期すとともに①次世代のまちづくり参加の促進②新たな視点や感性によるまちづくりの推進③まちづくりに関心を持つ若者の人材育成④将来の移住定住促進および関係人口の育成—を掲げる。具体的な活動は▽イベント・行事への参加▽商品開発（レシピのプロデュースなど）▽イベントの企画▽SNSを活用した情報発信—などだ。

注目はメンバー自身が掲げる JK 課の“心得”。「何もしない、ではなく、何かやってみよう」「成果は求めません。失敗してもいいのでやってみよう」と喚起し「ぜひ地域に出かけ、成長という名の坂道を駆け上ろう」と呼びかける。

今年2月、鳥取県西部地区の7町村でつくる社会教育協議会の研究大会が開かれた日野町文化センターで

JK課の活動には“予算”がついていないので「カンパ」集めは必須。日野町役場で募った「カンパ」では4万円ほど集め、商品の仕入れやJK課Tシャツの製作に充てた



も、JK 課の現役・OG メンバーが特設ブースに陣取った。みな底抜けに明るい。町内外から訪れた大会参加者に愛嬌をふりまきながら売り込むケーキは、日野高校の生徒が考えたレシピで隣の菓子屋に焼いてもらったシフォン。地元産の荳胡麻と自然薯を練り込んだ逸品はまたたく間に完売し、収益は後で開く手作りカレーパーティーの食材費に充てられた。

メンバーの発案により町内の高齢者自助グループの集まりに出かけ交流。お年寄りからも「若い人と話ができるのは楽しい」と大好評だった



空き家活用をテーマにメンバーが発案した鍋パーティー。日野町お試し住宅を活用して地域住民とふれあう

ふるさとに関わり続けたい—

米子から日野高校に通っていた OG 浦上衿華さんは同市内で働きながら休日返上で駆け付けた。「地域の力を借りながら活動する中で人のやさしさを知った。自分を表現する術も身に付いた」と JK 課での果実を振り返る。同じく米子出身の OG 坪内明日香さんは、JK 課なしには得られなかった地域内の子育て支援に関する知見を生かし、子どものころからの夢だった保育士を目指して短大で勉強中だ。

地元出身で JK 課発足時のリーダー格を務めた柳瀬明日香さんは

「学校に敷かれたレールではなく自分たちが敷いたレールで体験を積むことで、良いことも悪いことも、いろんなものが見えてきた」と述べ「地元の広報紙はじめ大手のメディアが盛んに取り上げてくれたことで SNS などに全国からレスポンスがあった」と、初代「課長」らしい分析をしてくれた。その課長職を継いだ妹の穂乃香さん（日野高2年）や松本真緒さん（同）も、地域の人や先輩らに支えられ多くの人と接する機会を得た喜びをかみしめながら「何かを変えよう」と奮闘している。

プロジェクト当初からこのワークショップをデザインする日野高校魅力向上コーディネーター片平誓子さんは「ここがすごい」をひとつ決

めて子どもたちが自分の力を試せる環境が必要」と強調する。「一緒に面白いことして、失敗しよう」がモットーとも。そのために役場の各部署や地域、学校・保護者の連携とサポートに余念がない。

高校卒業後は町外の専門学校に通い作業療法士を目指す柳瀬明日香さんに今後の進路・展望を尋ねると、「このまちで就職するのは難しいかもしれない」と伏し目がちに…。が、すぐに続けて「たとえ職場がなくても、ここに住み続けたい。通勤先が遠くなってそれも困難だとしても、とにかくふるさとに関わりたいんです」と語る元 JK 課長に、まぶしいばかりの笑顔が戻っていた。

【文・鹿野哲人】

高校生と地域をつなぐ日野高校魅力向上コーディネーター片平誓子さん



JK課の初仕事は「ひのふれあいまつり」出店。他校の生徒も集結して賑やかなスタートとなった

日野町は、鳥取県西南部に位置する人口約3,100人、面積133.98km²の町。豊かな自然に囲まれ、見上げれば宝仏山（標高1,005m）、遠くは大山（だいせん）を望む風光明媚な場所にある。町の中心部、根雨（ねう）はかつて出雲街道の宿場町として栄えたほか、明治時代に近代製鉄が台頭するまで、「たたら製鉄」が重要な産業としてこの地を支えてきた。また、全国でもここにしかない縁起の良い名前である「金持（かもち）神社」には、毎年、金運・開運を求めて多くの人が訪れる。町を横断するように流れる一級河川・日野川では、春・秋は自然の中を豪快に下るラフティング、夏にはアユ釣り、冬には多い時で千羽を超えるオシドリが飛来する。四季折々の表情を見せる日野川は、今日も訪れた人の目を楽しませている。

日野町はこんなまち



JK課発足時には米子のコミュニティFM「DARAZ」に出演、日野町をPRした



イワナの旨味がたっぷり溶け込んだオイルまで絶品!

いわなのアヒージョ

一袋 700円 (税込)



かわうちむら 川内村

面積 197.35km²、人口 2,655人。福島県双葉郡の中西部に位置し、南北には雄大な阿武隈高地の山々が連なる。村の標高は平均約456mと高く、水稲、蕎麦、生食用ぶどう、畜産、高原野菜などを複合した農業が盛ん。また、ワイン醸造用ぶどうの栽培も行われている。モリアオガエルの産卵場として有名な平伏沼をはじめとする豊かな自然景勝を有する。清らかな水により育まれた「いわな」の料理や加工品が特産の一つ。

株式会社あぶくま川内(いわなの郷交流館)

〒 979-1201

福島県双葉郡川内村上川内炭焼場 516

Tel 0240-25-8809 Fax 0240-38-3236



「アヒージョ」とは、スペイン料理のタパス(前菜)の一つで、ニンニクを入れたオリーブオイルに魚介や野菜などの具材を加えて煮込んだ小皿料理。具材を味わうほか「魚介の旨味が溶け込んだオリーブオイルを楽しむ料理」として女性ファンも多く、近年、数あるスペイン料理の中でも存在感を高めています。

本品の具材となるのは、川魚で最も水源に近い清流のみに生息することから「幻の魚」と言われるイワナ。村内にある、釣り堀を併設した体験施設「いわなの郷」で卵の孵(ふ)化から完全養殖しています。手塩にかけて育てた三年物を、オリーブオイル、ガーリック、バジル、川内産のシイタケとともにアヒージョに。デリケートなイワナは、独自の技術で丁寧かつ手早く加工されます。製造を手掛

けるのは、東日本大震災で津波被害に遭った宮城県石巻市の山徳平塚水産。同じく被災した川内村からのコラボ要請を快諾し、二者で協力して商品化。被災地で頑張る人の元気をもらい、復興支援にも一役買える特産品です。

スキレットで温めると、ニンニクの芳しい香りが立ち込めます。刺身でも食べられるくらい新鮮なイワナは、身がふっくらと柔らかく、淡泊で繊細な味わい。川魚特有の臭みはなく塩加減も絶妙で、バジルの風味とピツタリ。旨味たっぷりのオイルをバゲットにつけて、一袋余すところなく楽しめます。ワインにも日本酒にもベストマッチの逸品。パスタに絡めれば、高級レストラン並みの一皿が手軽に作れます。

【文・白波瀬聡美】

読者プレゼント



いわなのアヒージョ(一袋) 3名様

アンケート

- Q1. 面白かった・関心を持った記事はなんですか?
- Q2. 今後取り上げてほしい内容はありますか?
- Q3. お住まいは水源の里(限界集落)ですか? またそれに関わらず、地域で解決したい問題があれば教えてください。
- Q4. 水源の里への思いや本誌に関するご意見・ご感想

プレゼント応募方法

はがきにアンケートの回答と住所、氏名、電話番号を明記の上、『水の源』編集委員会『水の源 44号』読者プレゼント係までご応募ください。

【平成31年4月20日(土)消印有効】

- ※当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。
- ※ご応募いただいた方の個人情報は、商品発送以外の目的では使用しません。

協議会だより

第11回全国水源の里フォトコンテスト作品募集

テーマ

「水源の里」の四季折々の自然風景、人々の生活や祭事、その地域を象徴する風物など、水源の里の魅力が表現された作品を募集します。

応募資格

プロ・アマ、年齢、性別、国籍を問いません。

応募プリントサイズ等

- ・平成28年8月以降に撮影したもの。
- ・作品の周辺に、余白または余黒を設けること。
- ・四ツ切(ワイド可)又はA4、インクジェット出力可。
- ・カラー・モノクロ自由、単写真に限る(合成写真不可)。
- ・複数応募可

受付及び締切

平成31年6月1日から8月31日まで(最終日消印有効)作品の受付通知が必要な方は、返信用はがきを作品に同封してください。

応募料

1点1,000円。2点目以降1点増えるごとに500円追加
株式会社ゆうちょ銀行(郵便局)で、次の振替口座へ8月31日までにお振込みください。

<振替口座番号> 00930-1-254159

<口座名> 水源の里フォトコンテスト

賞

グランプリ(1点).....	賞金20万円
総務大臣賞(1点).....	賞金5万円
農林水産大臣賞(1点).....	賞金5万円
国土交通大臣賞(1点).....	賞金5万円
特選(10点).....	賞金1万円

審査員

田沼武能(一般社団法人日本写真著作権協会会長)
鷺田清一(哲学者、京都市立芸術大学学長)

選考結果

平成31年9月下旬に直接本人あてに通知します。
平成31年11月上旬に香川県まんのう町で開催される「第13回全国水源の里シンポジウム」において表彰式・入賞作品展覧会を開催予定。グランプリ並びに各大臣賞入賞者は、表彰式への出席を依頼します。

注意事項

- ①応募作品は、写真作品に限ります。過去にコンテスト等で入賞、入選された作品は応募できません。また、現在コンテスト等に応募し、まだ結果が判明していない作品も応募できません。
- ②応募作品の著作権は、撮影者に帰属します。入賞作品の使用権は、2年を限度に主催者側に帰属します。また、水源の里事業の広報などに使用することがあります。入賞者はネガ・ポジフィルム(デジタルの場合はデータ)を提出していただきます。
- ③入賞作品の作品原版(フィルムまたはデジタルデータ)は、2年を限度に、主催者がお預かりして、広報活動に使用するなどし、使用期間満了後、撮影者に返却します。
- ④作品の返却希望者は応募時に返信用封筒・切手を同封してください。
- ⑤被写体の肖像権、著作権には十分ご注意ください。
- ⑥応募者は応募規定、注意事項をすべて了承したものとみなし、違反した場合は入賞を取消す場合があります。
- ⑦応募作品の取り扱いには十分注意しますが、万一の事故に対する責任は負いかねますのでご承知ください。

応募・お問合せ先

左記宛先「フォトコンテスト事務局」まで
応募要項・過去の入賞作品は、協議会ホームページでも紹介しています。

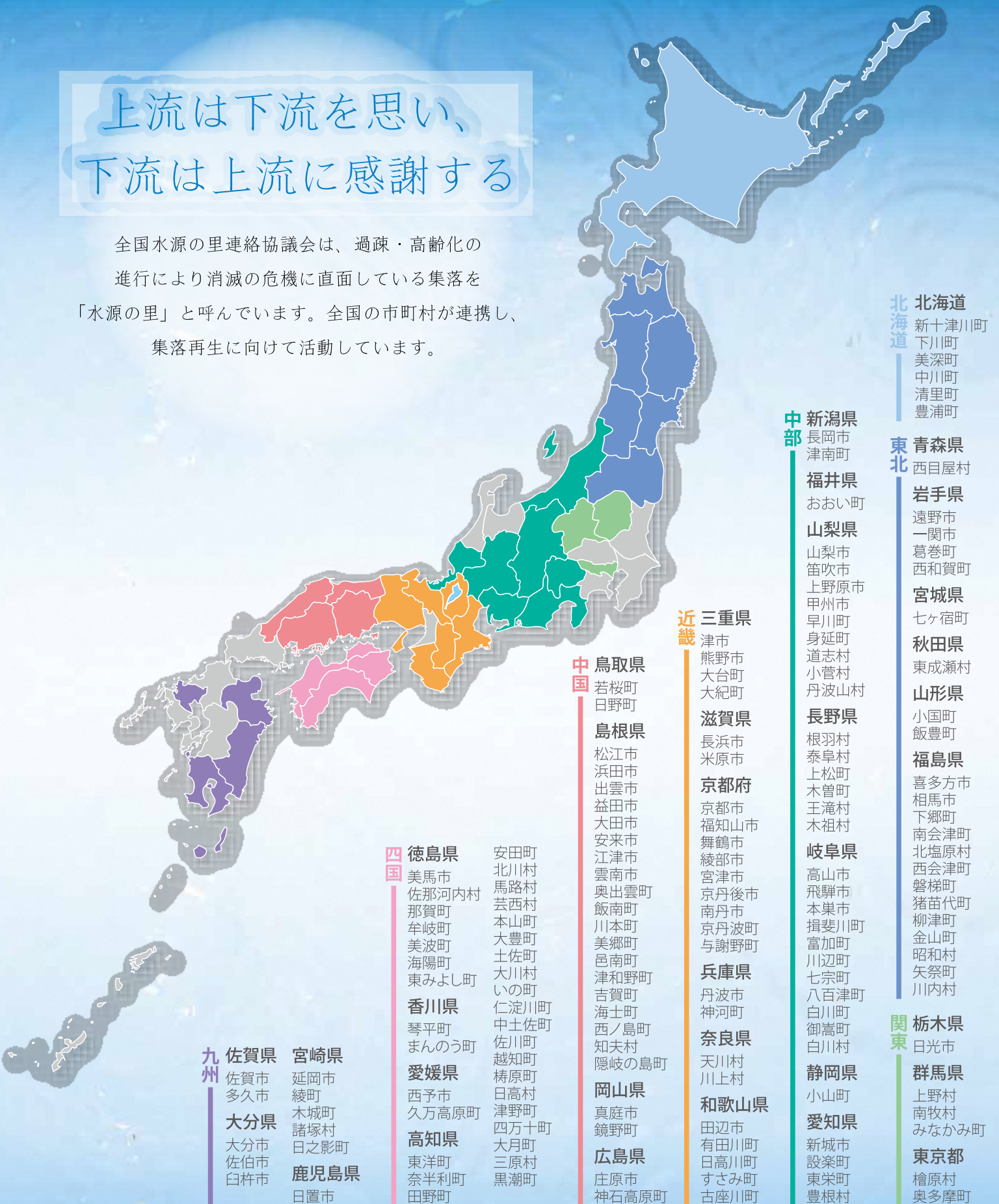
<http://www.suigenosato.com/>



第10回グランプリ
「清流の天精」

上流は下流を思い、 下流は上流に感謝する

全国水源の里連絡協議会は、過疎・高齢化の進行により消滅の危機に直面している集落を「水源の里」と呼んでいます。全国の市町村が連携し、集落再生に向けて活動しています。



- 北海道**
新十津川町
下川町
美深町
中川町
清里町
豊浦町

- 青森県**
西目屋村
- 岩手県**
遠野市
一関市
葛巻町
西和賀町
- 宮城県**
七ヶ宿町
- 秋田県**
東成瀬村
- 山形県**
小国町
飯豊町
- 福島県**
喜多方市
相馬市
下郷町
南会津町
北塩原村
西会津町
磐梯町
猪苗代町
柳津町
金山町
昭和村
矢祭町
川内村

- 新潟県**
長岡市
津南町
- 福井県**
おおい町
- 山梨県**
山梨市
笛吹市
上野原市
甲州市
早川町
身延町
道志村
小菅村
丹波山村
- 長野県**
根羽村
泰阜村
上松町
木曾町
王滝村
木祖村
- 岐阜県**
高山市
飛騨市
本巣市
揖斐川町
富加町
川辺町
七宗町
八百津町
白川町
御嵩町
白川村
- 静岡県**
小山町
- 愛知県**
新城市
設楽町
東栄町
豊根村

- 三重県**
津市
熊野市
大台町
大紀町
- 滋賀県**
長浜市
米原市
- 京都府**
京都市
福知山市
舞鶴市
綾部市
宮津市
京丹後市
南丹市
京丹波町
与謝野町
- 兵庫県**
丹波市
神河町
- 奈良県**
天川村
川上村
- 和歌山県**
田辺市
有田川町
日高川町
すさみ町
古座川町

- 鳥取県**
若桜町
日野町
- 島根県**
松江市
浜田市
出雲市
益田市
大田市
安来市
江津市
雲南市
奥出雲町
飯南町
川本町
美郷町
邑南町
津和野町
吉賀町
海士町
西ノ島町
知夫村
隠岐の島町
- 岡山県**
真庭市
鏡野町
- 広島県**
庄原市
神石高原町

- 徳島県**
安田町
北川村
馬路村
芸西村
本山町
大豊町
土佐町
大川村
いの町
仁淀川町
中土佐町
佐川町
越知町
椿原町
日高村
津野町
四万十町
大月町
三原村
黒潮町
- 香川県**
琴平町
まんのう町
- 愛媛県**
西予市
久万高原町
- 高知県**
東洋町
奈半利町
田野町

- 佐賀県**
佐賀市
多久市
- 宮崎県**
延岡市
綾町
木城町
諸塚村
日之影町
- 大分県**
大分市
佐伯市
臼杵市
- 鹿児島県**
日置市

私たちは水源の里を
応援します!!

全国環境整備事業協同組合連合会
一般社団法人 全国浄化槽団体連合会
全国森林組合連合会

全国農業協同組合連合会
電気事業連合会
独立行政法人 水資源機構

独立行政法人 水資源機構
公益社団法人 大分県薬剤師会